

さざなみ



社会福祉法人親和会
さざなみ学園
Tel (0853) 43-2252
Fax (0853) 43-2256
e-mail:sazanami@rhythm.ocn.ne.jp

平成30年度を終えて



この一年を振り返ると、安全・安心について考えさせられる年でした。

30年度スタート早々の4月に大田での地震（島根県西部地震）があると、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道地震と全国的に災害の多い年でした。新年に入り昨年のような大雪が降るのではないかと心配もしていましたが、この冬は暖冬となり大雪もなく、少し安心しました。しかし、災害はいつ起こるかわかりません。起こってから慌てることがないように、園においても、設備、必需品の点検や「毎月の避難訓練」等、日頃からの災害への意識を持つことが、安全・安心に繋がるのだと強く感じました。

最近のニュースで取り上げられている「虐待」についても、施設においては「支援の質を上げるという意識を持つこと」で安全・安心な生活に繋がります。虐待が発生する前には、「表面化していない虐待」や虐待と適正な支援の間にある「不適切な支援（グレーゾーン）」があり、その積み重ねが虐待となります。グレーゾーンの段階で、虐待の芽を摘みとることが虐待の防止に繋がります。その為には、グレーゾーンは、虐待であるという共通認識を持ち、「その支援はおかしい」と言える環境づくりをすることです。それが支援の見直しとなり、支援の質を上げることになります。

例えば不適切な支援（グレーゾーン）を見直すと

①行動特性を理解せず、職員間の思いや考えに合わせようとする。

⇒行動特性を理解し、寄り添った支援をする。

②家族に問題行動を説明する際、経緯を説明せず結果のみ伝える。

⇒経緯を丁寧に説明し、なぜ問題行動となるのか探る。等一つ一つ虐待の芽を摘むことで支援の質を上げることに繋がります。

今後とも、より良い支援の在り方を問い続けながら、保護者の皆様並びに、関係者の方々のご支援、ご協力のもと、安全・安心な施設を目指していきたくて思っております。



【園長 片岡久】



新規スタッフ紹介

平成31年1月より、
作業療法士として入りました。
笑いと泣きの作業療法とともに、
皆様と楽しい時間を
過ごせたらいいと思います。
よろしくお願いします。



【療育スタッフ 荒木裕子】



支援課



冬休みの様子について

今年も終業式の日（下校後の昼食）に学園の遊戯室で児童忘年会を実施しました。数々のご馳走オーダブルやケーキを囲み、会話を楽しみながら二学期の思い出話に花を咲かせる場面が数多く見受けられました。お腹もいっぱい、胸いっぱいの楽しい会となりました。大晦日は毎年恒例の『紅白歌合戦』や『絶対に笑ってはいけないダウンタウンのガキの使いやあらへんで』をテレビで観ながら、歌を聞き入ったりゲラゲラ声を出して笑ったりと年末のゆっくりとした雰囲気を楽しむことができました。また大晦日はみんな遅くまで起きていようと眠い目をこすって頑張っている姿が微笑ましく印象的でした。さて新年一発目はどんな夢を見たのでしょうか・・・？（笑）新年を迎え一月二日には長浜神社に初詣外出に出掛けました。長い石段をのぼり本堂ではしっかりと願い事や今年の抱負などを各自が胸の中で唱えました。ここで皆さんを代表して「今年もどうぞ学園の児童たちが元気で楽しい日々が送れますように」とお願いをしました！！その帰りにはコンビニに寄りおやつを購入して、学園に帰ってからみんなで食べました。

今年も良い年になるようスタッフ一同願っています。

【支援課 飯塚達宏】



生活訓練の様子について

支援課の生活訓練では、生活の中で必要な訓練をしています。洗濯機を使用して洗濯し、干す事もしています。

初めは洗濯機の使い方や洗剤の量が分からず不安そうな様子でしたが、困った時には質問をしたりアドバイスをもらいながら毎日取り組む事でシワなく干せるようになってきました。お風呂上りにはお風呂場や脱衣場掃除ができるように取り組んでいます。掃除の回数を重ねるごとに自分で「こうしたら早くおわるのではないかと自分で考えて行動する事で時間を短縮したりと、大きな成長を感じています。訓練を続ける事で、①自分で考える力②思いやり③時間 等々さまざまな事が身に付き、訓練ではない事でも自ら気付いてお手伝いをしたりと周囲への気遣いができるようになりとてもうれしく感じます。これからも継続して取り組んでいきたいと思えます。

【支援課 福島史織】





新年度に13名からスタートしたぽこぽこも、年度の終わりに近づき現在は4名増えて2月には17名の利用となりました。今年度も季節に合わせて様々な行事を計画し、共に楽しむことができました。年末にかけては、「クッキングウィーク」「クリスマスウィーク」、年始には「ドライブ」をした日もあり、季節を感じながら過ごしました。今年度はじめて実施した「クッキングウィーク」では、自分達で準備して作ったものを食べることで「食」へのモチベーションを高めること（食育）、お友達と共に作り食べることでやりとりを増やしていくこと（コミュニケーション）、お友達と役割分担して作ることで、集団意識を育てること（社会性）の3つを、主なねらいとして計画しました。それぞれの発達に合わせて手先を使う練習にもなったと思います。そして「クリスマスウィーク」には、ぽこぽこのサンタさんが登場！クリスマスの製作をしたり、サンタさんに自分から質問したり…いつもとは違う登場人物が出てきたことで、子どもたちの積極的な姿が見られました。年明けには寒さに負けず、ドライブをして初詣や風の子学習館で楽しみました。療育の中には、繰り返していく「ルーチン」と、いつもとちょっと違う「Vividな（生き生きした）イベント活動」の2つに大きく分けられるように思います。日々の生活の中で積み重ねていく時間も大切です、イベントを通していつもと異なる力が見えたり、感情が出てきたりして、日々積み重ねたことを一つの形にしていくことができるように思います。様々な「ウィーク」(イベント)を通して楽しむことはもちろんですが、それを通してまた日々の療育（ルーチン）に戻り、また新たな「ウィーク」に向かっていく…。その繰り返しによって成長していく子どもに、スタッフが気づかされるのが本当にたくさんあります。そういった気づきはスタッフのエネルギーの元となって、次の療育計画の意欲につながっています。利用児さんとスタッフがお互いに元気をもらい合う関係を、毎日大切にしていこうと改めて感じているところです。

今年度も残り少なくなりました。卒園や就園のために利用が終了、もしくは少なくなるお友達もおられますが、この残りの時間を大切に、毎日の一つ一つの行動を丁寧にサポートしていきたいと思っています。

【療育スタッフ 岩橋由佳】



放課後等デイサービス



放課後等デイサービスでは、冬休みにハピネスバンドさんに来て頂き一緒にバルーンアートや音楽を楽しんだり、長浜神社や出雲大社へ初詣に行きました。第一、第二放デイ合同でのクッキングでは、放課後等デイサービス第一利用児童がおにぎりを握り、放課後等デイサービス第2利用児童のお兄さん、お姉さん達は、豚汁やカボチャコロッケ、野菜のお浸しを作りました。自分たちで作ったご飯はとてもおいしく、一年を振り返りながら子ども達は笑顔いっぱいでもりもり食べました。

【療育スタッフ 定國佳奈】



ふれあい教室

今年度も残りわずかとなりました。今年度のふれあい教室は、新しい9名の子どもさんが通室され始め、寒さにも負けず元気いっぱい、笑顔の絶えない賑やかな教室でした。1年間を通していろいろな活動に取り組んできたふれあい教室。製作活動では、ハサミの操作や糊付けなどで手の操作を高めながら、季節に合った作品作りをしたり、運動では、歩く、走る、ジャンプするなどの粗大運動やトランポリン、鉄棒などの体幹を鍛える遊びなどをしました。どの活動でも子どもたちはとても楽しそう、大人も一緒になって笑い合いながら取り組みました。また、春には開級式、秋には交流会、冬はクリスマス会などの行事もあり、たくさん子どもさんとそのご家族の方に参加して頂きました。

今年度で卒園される方や修了される方が3名います。少し寂しい気持ちもありますが、今までの経験を糧に一步一步前へ進んでいってほしいと思います。そして、来年度もふれあい教室に来て下さる方、1つお兄さんやお姉さんになったみんなと楽しく活動をしていきたいと思いますので、来年度もふれあい教室をよろしくお願いいたします。

【療育スタッフ 水師成美】



松平様よりもち米を頂きました。みんなでおいしく頂きました。
日頃よりたくさんのご支援、ご協力を頂きありがとうございます。

編集後記

本年度中は大変お世話になりました。今年度も様々な行事や出来事があり、子どもたちもスタッフもたくさんの思い出ができたと思います！また来年度に向けて新たなスタートが切れるよう、体調に気を付けて元気に過ごしていきたいと思います。

広報委員：嘉本・江角・定國

掲載しました氏名・写真につきましては、本人・家族に承諾を得ています。